

NO-MA ニュースレター

2012.1 / VOL.12

ボードレス・アートミュージアム NO-MA ニュースレター

展覧会レポート

フィギュアたちの人生

第8回滋賀県施設合同企画展

ing... ~障害のある人の進行形~

Topic of NO-MA

子ども☆ワークショップ

自分だけのオリジナルデコフィギュアをつくろう!

ABCColumn

アール・スリュットを巡るコラム VOL.2

地域インタビュー

あの一との近江八幡スタイル とりいしん平さん

第8回滋賀県施設合同企画展
ing... ~障害のある人の進行形~

2011年12月3日(土)~2012年1月11日(水)

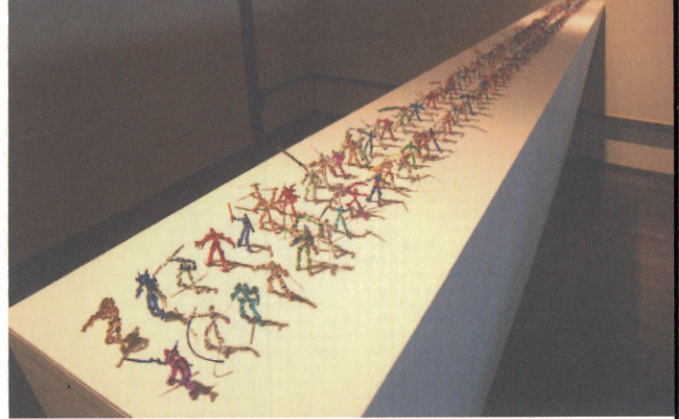
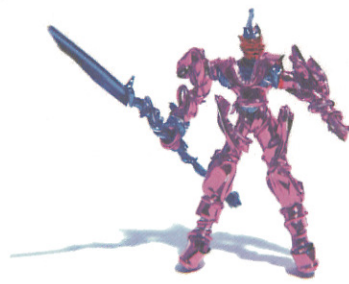
主催:第8回滋賀県施設合同企画展実行委員会
ポードレス・アートミュージアムNO-MA



文:はたよしこ
(「フィギュアたちの人生」企画担当)



↑河野咲子作品展示風景(撮影:大西輔夫)



↑勝部翔太作品展示風景(撮影:大西輔夫)
←勝部翔太作品(撮影:大西輔夫)

2

本展は滋賀県内の福祉施設職員とポードレス・アートミュージアムNO-MAが実行委員会を組織してつくる施設合同企画展である。これまでも、障害のある人が日々の暮らしの中で生み出した表現のおもしろさや輝きを多くの人に伝え、感じていただきたという思いで作品展を実施してきた。8回目を迎える本展は、21施設、

1

人は太古の昔から埴輪や土偶などのように、生活の中でヒトガタを作り、それらに様々な意味や役割をもたせてきた。一方、何の役に立つのか分からない、とても個人的なヒトガタというものが存在する。本展は、「何故人はヒトガタを作り、それに思いを寄せるのか」というテーマを面白く且つ深々と感じていただく人気の企画展となった。NO-MA館内の、思いがけない随所に潜むデハラユキノリのフィギュアたち。デハラは近江八幡の町中にフィギュアを設置し、撮影して映像作品にも仕立てた。道行く人の足を止めさせたのはガラス戸越しに人を呼ぶ、河野咲子の不



フィギュアたちの人生

2011年9月3日(土)~11月13日(日)

【後援】
滋賀県、滋賀県教育委員会、
近江八幡市、近江八幡教育委員会

【協力】
海洋堂フィギュアミュージアム黒壁 龍遊館、
海洋堂、地域生活支援センターふあっと、
もみじ・あざみ寮、信楽青年寮、
日本精神看護技術協会、
ヴォーリス建築保存再生運動一粒の会、
アトリエひこうぎくも、
近江八幡観光物産協会、しみんふくし滋賀、
八幡酒蔵工房

思議な裸人形たち。また、細長い展示台に一直線に並ぶのは、勝部翔太の3センチほどの極小針金人形200体。その壮観さに、観客も思わずため息をもらした。フィギュアコレクター憧れの的、海洋堂のBOME(ボーム)作の美少女フィギュアたちは、裏庭の緑の木々を背景に美しくその存在感を示した。2階に上がると古賀翔一の妖怪シリーズが居並ぶ。強引にも紙とセロテープだけを使い「作りたい思い」のみが突っ走ってカタチとなった人形たちだ。壁を回り込むと、またもや紙とセロテープだけで作られた強引系の人形群。石野敬祐だ。次の和室は、身近な日常品

31人が出展。展覧会のために作られた作品ではなく、「日々の暮らしの中で生み出されたもの、継続して取り組んでいるもの」などを展示した。まさに「ing... 障害のある人の進行形」を感じてもらえる展覧会となった。



デハラユキノリ作品(撮影:作家本人)

にちょっと手を加えることで、こりりとそのイメージを変容させる新進の注目作家、金氏徹平。また裏庭の蔵の中には56体の世界の人が居並ぶ。これらも作者の大江正章の独断が突っ走る超強引系の世界である。観客は、従来に比べて20~30歳代の若い年齢層が多く、展覧会が口コミで広がったことがアンケートからもうかがえた。

ノマ
Topic of
NO-MA
トピ

自分だけのオリジナル
デコフィギュアをつくらう!!

11月3日(木)文化の日。集合時間になり、次々と玄関に子どもたちが集まってきた。ワークショップ前に実際に展覧会を鑑賞するギャラリートークに参加するためだ。

「この作品は何で作られている?」熱心に見入る子どもたちに質問すると、ためらいながらも次々と様々な素材の名前が飛び交い、用意していた素材を実際に見せると、更にびっくりした顔が目の前に広がった。

その後は、NO-MAから徒歩10分ほどの旧八幡郵便局へ移動。約90年前にウィリアム・メレル・ヴォーリスが設計したこの歴史ある建物の

中で、「アトリエひこうぎくも」という絵画教室を開いている塚本智映さんと一緒にワークショップを開催した。

ワークショップは、展覧会にも出展しているフィギュアメーカー海洋堂の、ペンギン、ティラノザウルス、ドラゴンの3種類の未彩色フィギュアに、アクリル絵の具で自由に着色したあと、毛糸、ビーズなどをフィギュアに「デコ」(飾り付けて)ってもらうことで、自分だけのオリジナルのフィギュアを作るものだ。子どもたちはもちろん、付添のお父さんやお母さんたちの方が時を忘れて熱中してしまう姿も見られた。2時間ほど休みなく作り続

けていただろうか。次々と完成する色とりどりのフィギュアたちを建物の中や庭をバックに撮影した。

旧八幡郵便局の中で、ずっと昔からそこにいたかのようなフィギュアたちと共に、こどもとおとなたちの笑顔がはじけていた。

文:藤本えりか(企画展副担当 学芸員)



「フィギュアたちの人生」
関連イベント
コトモ☆ワークショップ

国内のオール・ブリュット(以下「AB」と略記)普及における第一人者であるはた氏の最初の言葉は「人の表現にボーダーはあるのか」。

NO-MA開館初期の2つの展覧会における作家の作品と人物像を紐解きながら、AB作家と現代美術作家の共通点を探っていく。彼女は「表現活動の根っこにあるのは、極めて私的な美的追求」である点を両者の共通点としつつも、その



オールブリュットを巡るトークシリーズ 視点3
 ゲスト: はたよこ (ボグレス・アートミュージアム NO-MAアートディレクター/絵本作家)
 聞き手: 保坂健二郎 (東京国立近代美術館研究員)
 日時: 2011年9月24日(土) 14:30~16:30
 会場: 近江兄弟社大教室 (近江兄弟社学園 本館1F)

追求の先に辿り着く場所、あるいはその美を届けたい他者が存在するか否かについては、隔たりがあることを語る。その「あてのないさ」は何か。例えば、自閉症の作家の中には、文字に対して高い関心を示す人が多い。彼ら彼女らは自分と世界との関係性が流動していく、その変化に対して非常に敏感であり、多くの人が見過ごす変化に対しても混乱を起すことが多いらしい。だからなのか、彼らは文字やロゴマークといった「必ずそこにある」ものを手がかりに、世界に自分を繋ぎ止めているのかもしれない。しかし、程度の差はあれ、多くの作家にとってこの「世界と繋がる方法としての表現」という感覚は通底しているのではないかと話

が進むにつれ、聞き手の保坂氏が展示事例も交えつつ、展覧会という存在は、その作品を体感する鑑賞者にも「この世界とのつながりかた」(保坂氏が2009年にNO-MAで企画した展覧会名でもある)を考えさせるきっかけになることが筆者の中で浮かび上がる。私の方法は、別の私である「あなた」にとってもリアリティを持ち得るかもしれないし、その「あなた」がリミックスして作り上げた方法がまた、別の私を揺り動かすこともありえるだろう。そう考えると、はた氏の冒頭の問いに対する表現のボーダーの有無は、芸術文化の枠を超えて、より一層、社会に広く提示されるべき問いであるかもしれない。

「あてのない私を受けとる私がいるということ」

オール・ブリュットを巡る コラム VOL.2 ABC Column



オールブリュットを巡るトークシリーズ 視点4
 ゲスト: 細馬宏通 (動物行動学者/滋賀県立大学 教授)
 聞き手: 保坂健二郎 (東京国立近代美術館研究員)
 日時: 2011年10月1日(土) 14:00~16:00
 会場: 滋賀県立大学サテライト・プラザ彦根

細馬氏のABに対する関心姿勢は一環している。それは、作家の内面に言及するのではなく、作品の制作工程で発生する作業の創造性をつぶさに見ていくことだ。人間の行動を研究している細馬氏ならではの、ある意味ドライな視点は様々な発見を参加者に提供してくれた。

例えば、すずかけ作業所の舛次崇さんのエピソードでは、「彼の作

品の特徴は輪郭のボケ。これはパステルをきゅつと持ちながら描いている手が次第に黒ずみ、さらに手のひらの下にも黒がついて、そのまま描き続けている間に、塗っているところ以外の箇所までキャンパスがこすれて汚れていく。これがあの独特の輪郭を生み出す。また、独特なフィギュア作品を制作する石野敬祐さんのエピソードでは、「とにかく作業シーンが衝撃的。インクの投入量の多さ。それに女の子モデルを描いた下絵を立体に変えるため、ハサミを入れていくんですが、なんと大胆にもスカートのど真ん中から切る。」

こういった即物的かつ淡々と語る視点が示すものは、ABにおいては結果としての作品だけでなく、

「ノリリミットな作業」

過程としての制作作業そのものが非常に創造的でパフォーマティブである、ということだ。そしてそのパフォーマンス的作業が生まれる背景として、細馬氏は、「リミッター」という言葉を使った。「何かしらの行動を起す際に、普通の人は自分のリミッター自体がどこにあるかがわからない。ああそろそろ限界やからとかを意識するのではなくもっとオートマティックにリミッターがかかる。でも、ABの作家の多くにはそのリミッターがかからないように見える」このリミッター問題は、表現により自我を超えようとする芸術家の多くに希望と羨望を投げかけつつ、人々がABと繋がる新たな回路を教えてくれた。



地域インタビュー
ohmi-nachiman local interview

近江兄弟社学園 教諭
ミュージシャン
とりいしん平氏

近江八幡市内の小学校教師と、
八面六臂に出没するアーティスト。
2つの顔でユニークな活動を
続けるオモシロイ先生の登場。

編: 西川賢司 (NO-MA地域交流担当)

26年前に恩師の紹介で近江兄弟社学園に就職し、私の近江八幡での生活がはじまり現在に至ります。北海道で生まれ、幼稚園の時から関西で育ちました。3歳から4歳の時には徳島県の祖父母の家で生活しました。大自然に囲まれたこの1年間の体験が私の心の原風景ですね。

絵も好きやし、音楽も好きやし、子ども好きやし、小学校の先生になろうとなんとなく思っていて、浪人中に京都にあった児童書専門の本屋さんで長谷川集平さんの「はせがわくんきらいや」という絵本に会い体中に電気が走りました。「きらいや!」って言いながら本音でぶつかり合う。子どもの世界の豊かさは凄って心を打たれ、この時に小学校の先生になると決意したんです。音楽活動は、幼少期に祖父母の前で歌った「王将」にはじまり、小学5年生

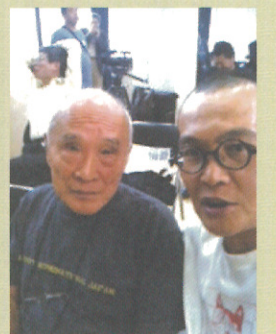
でウクレレ、中学でギター、高校ではロックバンド、いろんな音楽との出会いが今につながっています。30代の頃、教育に専念しなければという思いで音楽から8年も離れた時期がありました。知人の助言で再びギターを持ち歌いました。それから、学校にいろんなアーティストを招き、「表現」ということを子どもたちと一緒に学びました。その時、閉塞感を感じていた自分に新鮮な空気があたり、新しい世界や価値と出会う喜びを感じましたね。

NO-MAができたことも新しい出会いです。オール・ブリュットの作品から湧き出る、暖かさ、やさしさ、力強さを私は感じます。今、オール・ブリュットについて様々な議論がされていて興味深いです。少し違うかもしれませんが、70年代の音楽シーンで「日本語のロックはありか?」なんて議論があって結局答え

は出ませんでした。でも、あれから何十年もたって、その音楽はロックだと思うし、日本の音楽シーンに大きな影響を与えています。きっとオール・ブリュットも、私たちの子どもや孫の時代には当たり前にあるのだろうなと思います。

豊かな自然が隣り合わせにあり、表通りから少し外れたところにNO-MAがあったりする近江八幡を私は凄く魅力的に感じます。多くの教え子たちと出会ってきたこの地で、このまちの人や地域資源のステーションとなるような、子どもも大人も誰もが互いに学び合う場をつくることのできたらいいなって、今は思っています。

谷川俊太郎さんとともに



あのひとの
近江八幡
スタイル

徳島で過ごした幼少期





Art Brut in Japan and Korea 日/韓 行き交うところ

2012年 1月21日(土) ~ 3月11日(日)

11:00~17:00 ボーダレス・アートミュージアムNO-MA

日韓合同企画展 Art Brut in Japan and Korea

日/韓 行き交うところ

2012年 1月21日(土) ~ 3月11日(日)

◎ 一般300(250)円・高大生250(200)円
中学生以下、障害のある方と付添者1名無料
※()内は20名以上の団体料金

Ⓗ 11:00~17:00 月曜休館

企画展関連イベント情報

日韓井戸端会議 「ワールド・マッコリ・カフェ」

知っているようで知らないお隣の国“韓国”。マッコリ、食、アートを通じて大いに語り合しましょう。(日本酒もあるよ!)

2012年2月18日(土) 17:30~19:30
酒遊館(滋賀県近江八幡市仲屋町中21)
定員50名(要予約・定員になり次第締切)
¥1,000円

主催: ボーダレス・アートミュージアムNO-MA、社会福祉法人滋賀県社会福祉事業団、誠信女子大学博物館(韓国・ソウル市)

後援: 滋賀県、滋賀県教員委員会、近江八幡市、近江八幡市教育委員会

協力: (社)びわこ学園医療福祉センター野洲、(社)かなかんの里、NPO法人工房あかね、(社)オープンスペースれがーと、すずかけ絵画クラブ、NPO法人はれたりくもったり、社会的企業コイノニア(韓国・ソウル市)、(社)近江八幡市観光物産協会、NPO法人しみんふくし滋賀、八幡酒蔵工房、酒遊館

アール・ブリュットを巡るトークシリーズ

アール・ブリュットを美術、教育、医療、コミュニケーション、スピリチュアリティなど、様々な価値観・視点で編み上げる全8回の年間トークシリーズ。

視点8 2012年2月18日(土) 14:30~16:30
「美術コレクターからみたアール・ブリュットの魅力」

ゲスト: 田中恒子
(美術コレクター/住居学者/大阪教育大学名誉教授)

マルチメディアセンター情報会議室
(滋賀県近江八幡市出町645-4)

◎ 無料(要予約・定員になり次第締切)

NO-MA 今後の展覧会情報

NO-MAの場所や休館日は、下段をご覧ください。
NO-MA主催の企画展は確定次第、ホームページ等でご案内いたします。

(貸館展示)「ふくらんだ ~あそしあ作品展~」
2012年3月15日(木)~21日(水) ※19日(月)休館
Ⓗ 10:00~17:00 ◎ 無料
主催: 社会福祉法人湖北会あそしあ

(貸館展示)「隅野由子 個展」
2012年3月24日(土)~31日(金) ※26日(月)休館
Ⓗ 10:00~17:00 ◎ 無料
主催: 隅野由子(個人)

(貸館展示)「わになろう 作品展」
2012年4月10日(火)~15日(日)
Ⓗ 10:00~17:00 ◎ 無料
主催: 湖西地域障害者生活支援センター わになろう

(貸館展示)「西山悠子 個展」
2012年4月17日(火)~22日(日)
Ⓗ 10:00~17:00 ◎ 無料
主催: 西山悠子(個人)

鮎万里絵作品集発行のお知らせ

2011年、NO-MAで企画展を開催した鮎万里絵の作品集を発行しました。

タイトル: 日本のアール・ブリュット 鮎万里絵

企画: ボーダレス・アートミュージアムNO-MA
監修: 保坂健二郎(東京国立近代美術館主任研究員)
特別協力: マルティーン・リュザルディ
(パリ市立アル・サン・ピエール美術館館長)
ジョン・メーゼル(RAW VISION 編集長)

内容: 全66ページ、図版40点。アール・ブリュット・ジャポネ展に出展した作品のほぼ全てを掲載しています。研究者等による作品論やパリの評価なども、日・英バイリンガルでお楽しみいただけます。

執筆: 保坂健二郎、マルティーン・リュザルディ
田端一恵(ボーダレス・アートミュージアムNO-MA)

定価: 2,000円(税込)

はたよしこ 編集長はつばやく
ボーダレス・アートミュージアムNO-MA アートディレクター

新年、辻惟雄先生からいただいた御年賀状に「伊藤若沖もアールブリュットなのかもしれませんね」との一文が書かれていました。辻先生と云えば日本美術研究の第一人者。今や大人気の伊藤若沖の、その再評価の発端は、ひとえに先生の目に依っています。NO-MAの2008年の企画展「快走老人録」の時、「江戸の老人力」のお題で話をしていたことがあります。

たしかに若沖は85歳で亡くなるまで、絵を描くこと以外には全く興味が無く、結婚とも家業とも世間とも縁を持たなかったそうです。絵を描くことに対する異常なまでのこだわりが、作品から溢れ出ています。「奇想」というキーワードで日本美術を読み解いた辻先生の著書「奇想の系譜」の中でもトップランナーともいえるでしょう。

「実証のモノサシでは測れないのに、観る者をぎよっとさせ感動させるのはなぜなのだろう」数々のアール・ブリュット作品の探索に明け暮れた私の中に、いつも居座っている謎です。

「放っておいたら埋もれて行くタイプの達磨に、片目を入れるのが私の仕事です」とおっしゃっていた先生の言葉に勇気づけられるのは、私だけではないでしょう。



ボーダレス・アートミュージアム NO-MA

滋賀県近江八幡市永原町上16
TEL/FAX 0748-36-5018
(電話受付は10:00~17:30)

休館日: 月曜日
(月曜日が祝祭日の場合は翌日休館)

E-mail no-ma@lake.ocn.ne.jp
http://www.no-ma.jp

※全てのご予約・お問い合わせはボーダレス・アートミュージアムNO-MA(下記)まで

